

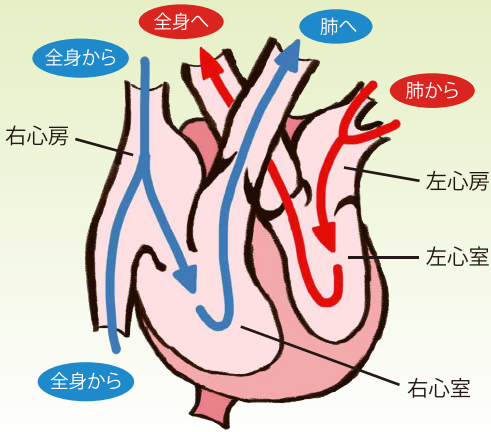
# 脈に不安はありませんか？

## 不整脈とは

心臓は上下左右4つの部屋とそれを囲む筋肉の壁でできています。筋肉の壁が収縮・拡張を繰り返すことで、血液をポンプのように全身に送り出している臓器です。心臓は1分間に60〜80回程度規則的に送られる命令(電気信号)によって正常に機能しています。

心臓への命令が異常に速くなったり、遅くなったり、不規則になって脈拍が乱れてしまう病気の総称を「不整脈」といいます。不整脈には、放っておいてよいものから、命に関わる恐ろしいものまで、様々な種類があります。

## 心臓のつくりと血液の流れ



### 不整脈の種類

- ① 脈が速くなりすぎる(頻脈)
- ② 脈が遅くなりすぎる(徐脈)

## 不整脈の治療

治療の方法としては、薬物治療、カテーテルアブレーションによる根治治療、体に器械を植え込むデバイス治療などがあります。

カテーテルアブレーションとは、不整脈の原因となっている心臓内の筋肉を電極の付いたカテーテルの先端から高周波電流を流して焼灼する治療で、薬で効果がなかった不整脈に対し、根治できる可能性があります。

高齢化に伴い最近患者数が増加している心房細動をはじめ、発作性上室頻拍、心房粗動、心房頻拍、心室頻拍、心室期外収縮など、アブレーション治療の対象となる不整脈は多岐にわたります。

心房細動のカテーテル手術は通常成功率が7割程度と言われていますが、当院ではより簡便に施行でき、心房細動の根治率がより高い可能性のある冷凍アブレーション手術を積極的に行っていきます。

体に器械を植え込むデバイス治療には、適切なスピードで動くよう心臓に命令を伝える「ペースメーカー」、致死性不整脈を自動的に感知して治療する「植込み型除細動器(ICD)」などがあります。

## 心室細動の危険性

不整脈のうち、心室(下の部屋)が異常に速く動き、痙攣したような状態になるものを「心室細動」と呼びます。

心室細動になると、心臓はほとんど機能しなくなり、血液循環が停止して意識がなくなります。心室細動は基本的に自然停止しないので、治療しないと「死」に至ります。このような不整脈を致死性不整脈といえます。

心室細動は前触れなく発生することが多く、予期することは困難です。植込み型除細動器(ICD)は、致死性不整脈を自動的に感知し、必要な時に自動的に治療(電気ショック)を行う医療機器です。

デバイス治療の手術件数は年々増加していますが、一方で植え込んだ機械に起因する感染症が問題になっています。

デバイス治療ではリードという金属線が体の奥の血管や心臓の中に留置する必要がありますが、このリードが敗血症・感染性心内膜炎など重篤な感染症の原因になることがあります。このような場合にはデバイスとリードを摘出しなければなりません。長年留置されているリードは血管や心臓の壁との間に癒着し、牽引しても抜けません。

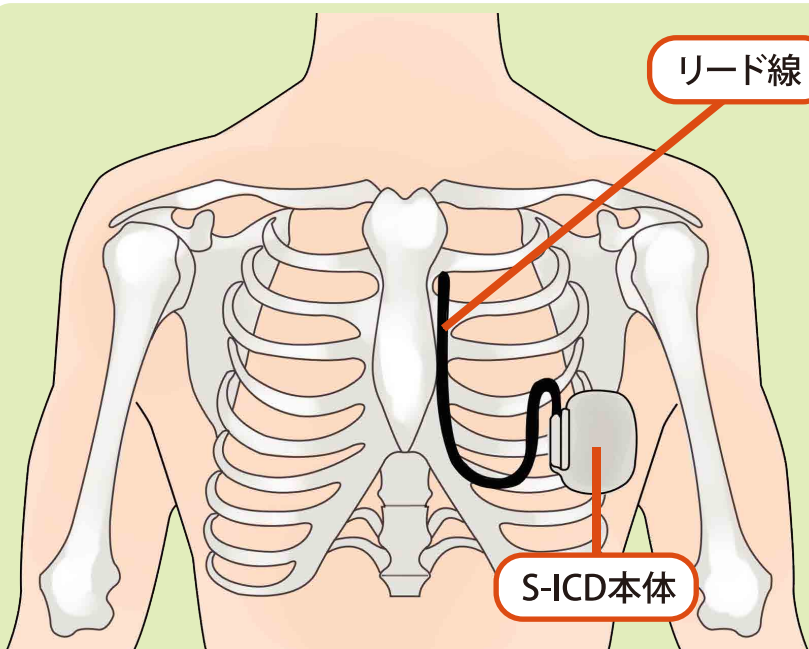
これまで、単純に牽引して抜去できないリードの抜去には開心術という危険性の高い大がかりな手術が必要でした。しかし、新

しい技術として開心術を必要としない、レーザーを用いたリード抜去の手術が可能となっています。山陰での手術を行うことができるのは当院だけです。

## 皮下植込み型除細動器 S-ICD

新しいデバイス「皮下植込み型除細動器 S-ICD」が2016年に保険適用となりました。これは、従来のICDのように体の奥の血管や心臓の中にリードを留置する必要がなく、従来のICDで懸念される重篤な感染症やリード抜去にまつわる問題の発生がありません。

当院では、このたび、このS-ICDの植込み手術を山陰で初めて施行しました。S-ICDは、すべての患者さんに使用できるわけではありません。従来型ICDとS-ICD、どちらが患者さんにとって最適な決定には、高度に専門的な判断が必要です。



リード線

S-ICD本体

### 皮下植込み型除細動器 (S-ICD)

本体は左わき腹、リード線は胸部のいずれも皮下に留置します。

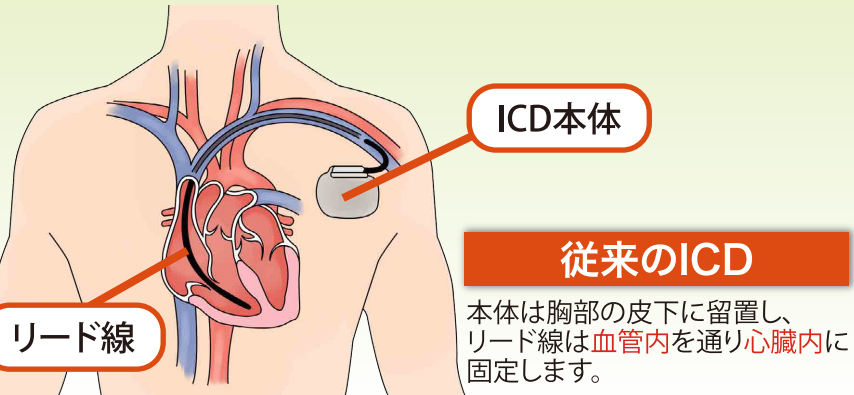
### 山陰初

### 「皮下植込み型除細動器 (S-ICD)」植込み術を施行



### S-ICDの利点

手術時に・・・体の奥の血管や心臓を傷つけません。  
手術後は・・・体の奥の血管内・心臓内に異物がないので、重篤な感染症が避けられます。  
抜去時に・・・体の奥の血管・心臓を損傷する心配がありません。  
※抜去自体も、癒着が少なく比較的容易です。



ICD本体

### 従来のICD

本体は胸部の皮下に留置し、リード線は血管内を通り心臓内に固定します。

## ホームページをリニューアルしました!

平成29年1月31日より、鳥大病院ホームページをリニューアルしました。今回のリニューアルでは、ホームページを利用される皆様がより見やすく、より使いやすいサイトを目指し、デザインを一新するとともにスマートフォンやタブレット端末にも対応いたしました。

また、メインビジュアルでの情報発信や「診療クローズアップ」など最新の情報をわかりやすく伝えるコンテンツを追加しました。今後とも、さらに内容を充実し幅広い情報を発信していきます。

新しいコンテンツも!



ボタンが大きく使いやすい!





# 「さくらんぼの会」を ご存じですか？

NICU・GCUで働く、  
新生児集中ケア認定看護師の取り組み



「さくらんぼの会」ってなあに？

NICU・GCUに入院している赤ちゃんたちは、長時間で両親と過ごすことはできません。そのため、看護師はご両親に、離れている間の赤ちゃんの様子や普段見せてくれるしぐさ、表情をお伝えしながら、「何をしたいのか」「どうしてあげたらいいかな？」と赤ちゃんが送るサインを丁寧に読み取りながら、ご両親に寄り添い一緒に考えていきます。

この入院中の関わりを、赤ちゃんの退院後にも繋げていく活動が「さくらんぼの会」です。退院後の生活では、赤ちゃんの成長に伴い、「こんな時どうするの？」など、ご両親やご家族は、さまざまな疑問や不安、戸惑いを感じる場合があります。そういった気持ちを少しでもやわらげ、安心して話せる場として、平成28年「さくらんぼの会」を作りました。新生児集中ケア認定看護師が中心となり、ご両親が思いを打ち明けたい時に語り合ったり、同じ境遇のご家族が抱えている感情や、赤ちゃんに対する思いを共有できたり、先輩ママから日頃のケアや赤ちゃんの成長に伴った日々の生活について話を聞くことができる交流の場を設けています。

「新生児集中ケア認定看護師」って  
どんな仕事？

医療技術の向上により、新生児死亡率は減少していますが、より高度な医療やケアを必要とする新生児は増加しています。そのため、新生児集中ケア認定看護師は、赤ちゃんの発達を促すため一人一人にあったケアを実施し、チームで質の高い看護にあたるように教育・指導などの活動を行っています。また、新生児を一人の人間として尊重するとともに、不安を持つご両親やご家族と赤ちゃんとの関係をより良いものにするためチーム医療を推進し、様々な支援を行う役割を担っています。



お問い合わせは... とくだい病院ホームページ > 診療科・部門 > 各センターのご案内 > 総合周産期母子医療センター > さくらんぼの会のご案内 > 申し込み・問い合わせページ

## 「ものづくりワーキング」発！ アイデア医療グッズ

当院は、医療現場における課題・ニーズに対応したもののづくりに積極的に関わっています。  
看護部が、次世代高度医療推進センター産業化臨床研究部門のサポートのもと、企業と共同開発し、製品化、販売につながった医療グッズを紹介します。

### とりりんワゴン

1 天板が広い！すべらない！  
2 スライド式の書類スペース  
3 鍵付きの引き出し  
4 コード類をきれいに整頓  
5 たくさんの収納スペース  
6 安定性のあるキャスター

6つのポイント

### たぐりん。

一目でわかる  
メモ書きでインシデント防止

機能性タグ  
書ける！  
水に強い！  
手でちぎれる！

ワンタッチ  
指で閉じるだけでタグ付け完了

入院患者さんの巡回（ラウンド）時における電子カルテ入力など看護業務に役立つ機能を充実させたワゴンを、当院で働く看護師の要望を聞き、企業との共同開発により作製しました。さらに院内の使用だけでなく、『鳥大がプロデュースした安全、安心の保証付きワゴン』として一般販売するためにワーキングを立ち上げ、性能試験や、現場での長期間のテスト運用を実施。その結果、たくさんの工夫を凝らし、ラウンド業務が安全で効率的に行えるワゴンが完成しました。

『たぐりん。』は、企業との相互交流により、企業の技術力や既製品に医療ニーズを加え、製品化したものです。スイカ用タグ付け器を看護部で試用し、用途や機能を医療現場に適するよう改良しました。一目でわかるタグはインシデント（事故などが発生するおそれのある事態）の防止に役立ちます。

## グッドスタッフ賞

～平成28年度の受賞者をご紹介します～

Good Staff

当院では、医療サービスの質向上を目的に、平成23年度より、グッドスタッフ賞を設けています。医師、看護師、コメディカルスタッフ、事務職員など当院の運営に関わる全ての職員を対象に、小さな心遣いで地道な努力を重ねている人、さわやかな笑顔で挨拶するなど皆が気持ちよく働ける職場環境に貢献している人、効果的な業務改善を提案した人などに贈られ、グッドスタッフの証としてバッジが授与されます。

これからも、職員一人一人が患者の皆さまからグッドスタッフとっていただけるよう、より質の高いサービスを提供し、安心して治療が受けられる病院作りを目指してまいります。平成29年1月5日の授賞式では、25名と1施設が表彰されました。

## 職員2,000人 総活躍！

とくだい病院を支えるスタッフ



### 第4回 歯科技工士

歯科技工士は、一般的に歯科医師の指示のもと銀歯や入れ歯などの製作を行う医療技術職です。当院の歯科技工士は一般的な歯科技工だけでなく、高度かつ先進的な医療に対して医師、歯科衛生士、看護師、他の医療技術職らと様々な形で関わっています。

例えば、口腔がんにおいては、高精度な手術に貢献するため、3Dモデルを基に手術用ガイドを製作します。そして手術に伴う機能障害や整容性の回復のために、顎義歯や顎顔面用エビテーゼを製作し、患者さんのQOL向上を図っています。また、乳児の口唇口蓋裂においては出生後早期にPNAM（ピーナム）という哺乳を補助し、鼻、歯槽、口蓋の成長誘導を目的とした装置を製作・調整します。その後も患者さんの成長と必要に応じて、青年期にわたるまで治療装置を作り替え、整容性や咬み合わせ、発音等の回復に役立っています。

これ以外にも顎変形症や顎顔面骨折、歯科インプラント治療などの疾患に対し、診療に立ち会い治療方針に沿ったより効果の高い装置の提案、製作をしています。歯科技工士は多職種と連携し、口腔・顎・顔面領域における質の高い医療の提供に貢献しています。

※エビテーゼ…医療用具として体の表面に取り付ける人工物のこと

## 病気に負けまい!! 予防栄養

### 第6回 肝臓を守る予防栄養

歓送迎会やお花見など、食事とともにアルコールをとる機会が増えてきますね。飲み過ぎ、食べ過ぎは脂肪肝を作ります。肝臓の働きは主に3つあります。

- 1 食べたものをエネルギーに変え、貯蔵する。
- 2 体に有害な物質（アルコール、アンモニア、食品添加物など）を分解する。
- 3 要らないものを排泄するのに必要な胆汁を作る。

アルコールの飲み過ぎは、肝臓が中性脂肪を作ることを促進し、脂肪肝の要因となります。脂肪肝の状態が続くと、肝炎→肝硬変と進み、肝臓癌のリスクも高まります。肝臓は、一部が駄目になってもカバーしてくれるため、なかなか自覚症状はありません。症状が出る前に改善することが大切です。

アルコールの1日適量は20gと言われています。アルコール20gは、  
ビール中瓶1本、日本酒1合、焼酎半合、ウイスキー60cc、ワイン200cc  
お酒に弱い人や女性は、これより少ない量が適量になります。

またアルコールを飲まない人でも食べ過ぎが続くと、肝臓に脂肪が貯まり脂肪肝になります。この状態が続くと、脂肪肝→肝炎の状態になります。これをNASH（ナッシュ：非アルコール性脂肪肝）と呼び、最近増えてきています。NASHは放置すると、肝硬変や肝臓癌にまで進行します。

飲み会は普段よりも食事時間が長く、ついつい食べ過ぎたり、飲み過ぎになります。飲み会が続く場合は、揚げ物、刺身や焼物、サラダなどに変え、ジュースやアルコールを控え、ウーロン茶を選ぶなど工夫しましょう。